

「～のために」を表す"☒"と"☒"

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千葉, 史子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/12335

「～のために」を表す“给”と“为”

「～のために」を表す“给”と“为”

千葉史子

[キーワード] 受益表現 介詞 動作対象 受益者 受け手 コーパス

【1】はじめに

受益文における介詞“给”と“为”は、後ろに同じ動詞を持つとき、しばしば同様の受益を表すようである。次の2文はともに「～のために部屋を準備する」という同じ相手に対しての受益を表わすが、コーパス(現代汉语通用平衡语料库 CylkSearch v2.6)の中から“给”と“为”それぞれを用いる表現が出てきた。

(1)晚饭后，若男陪志伟来到为他准备的房间。床上铺着雪白的床单，还有一叠衣服。志伟摸摸床单：“若男，谢谢你给我准备了这么好的住处。”

(夕食のあと、若男は志偉について彼のために準備した部屋に来た。ベッドの上には雪のように白いシーツとひと組の衣服が置いてある。志偉はシーツに触りながら：「若男ありがとう、こんなにいい部屋を僕に準備してくれて」と言った) 《若男和她的儿女们》

しかし、“给”と“为”の性質の違いから、常に同じ事象を表したり、同一文脈の中で互換可能であったりするわけではない。「親のために大学に進学した」という受益文において“给”を用いることはできないが、“为”を使って表現することはできる。

? (2) 我给父母上大学了。

(3) 我为父母上大学了。(为了父母，我上大学了)

もし(3)の“为”を無理矢理に(2)のように“给”に互換すると、本来の「親のために進学した」という意味ではなく、「親を大学に進学させた」という使役の意味になってしまう。つまり、“给”と“为”は、受益者(介詞目的語)、動詞、目的語、前後文、動作主受益者間の関係などといった

文の要素を制限する。言い換えるならば、それらの要素次第で、“給”を使うべきか“为”を使うべきかが決まってくる。本稿は、“给”と“为”がそれらの要素からどのような制限を受けるかを見つけることを目的として、主に“给”側からの視点で用例を検討していく。

【2】介詞“给”と“为”

まず、受益文における介詞“给”の意味を紹介する。

“给”：利益及び被害を与える相手を示す（小学館 中日辞典）

“给”：～のために、～に代わって（白水社 中国語辞典）

“给”：～のために 多く受益の対象または行為の受け手を導く（東方書店 中国語辞典）

“给”：動作の受益者を導く（角川書店 中国語大辞典）

“给”の介詞的用法は、辞書の記述ではいずれも授与動詞“给”の意味、すなわち「(人に物を)与える」という意味から発展したもので、多かれ少なかれ授与の意味を引きずっている。授与の語彙成分を含み持つ動詞と共起して、具体的な物の受け取り手を表したり、物の製作・獲得行為を表す動詞(句)と共起して、製作物や獲得物の受け取り手を導いたりする。恩恵や利益の受け手を示す働きは、そのような具体的な物の受け取り手を導く用法からさらに拡大発展してできた文法化した意味とされている。

次に“为”の意味を紹介する。

“为”：～のために 動作の受益者を導く（小学館 中日辞典）

“为”：～のために 行為の対象を導き、ある行為が誰・何の利益になるかを示す（白水社 中国語辞典）

“为”：～のために 動作の受益者を示す（東方書店 中国語辞典）

“为”：(～の) ために＝‘给’‘替’（角川書店 中国語大辞典）

“为”にはその他に、原因・理由を表す“因为”や、目的を表す“为了”などの意味が記述されているが、本稿では扱わない。

「～のために」を表す“给”と“为”

【3】先行研究

1、李晓琪 1994

李晓琪 1994 は、“为”、“替”との比較において、受益者を導く“给”によって構成される“N1+给+N2+V+N3”構文中の動詞は、全て“为”受益文の中でも使用可能と指摘する。例えば、以下の例文はコーパスの中から検出されたものだが、この際の“给”と“为”の使い分けに大きな差は出現せず、2つの文はともに「私のためにドアを開けてくれる」という受益文を表す。

(4)令我惊讶的是她是坐着轮椅车给我开门的。(驚いたのは、彼女が車椅子に座りながら私にドアを開けてくれたことだ) 《全世界都八岁》

(5)因为里面有其他的家人可以为我开门、(なぜなら中には他の家人がいて、私のためにドアを開けてくれることができ、) 《我在散文的形式里》

しかし、李の上記の指摘は、“N1+给+N2+V+N3”と“N1+为+N2+V+N3”が常に同じ意味を表すということに等しいわけではない。

?(6) 我给孩子请了三天假。

(7) 我为孩子请了三天假。(子供のために三日間仕事を休んだ) 作文問題より

上記の「子供のために三日間仕事を休んだ」という文は、“N1+为+N2+V+N3”では表せるが、“N1+给+N2+V+N3”では表せない。なぜなら、非直接的な行為が結果として利益をもたらす結果受益行為を“给”受益文では表せないからである(木村 2000)。「休暇をとる」という行為それ自体は職場を相手に行う行為であって、子供とは直接に関わらない行為であり、また子供に対する服務的行為でも介助的行為でもないため、この文は不自然となる。

2、木村 2000

上記の点に関係して、木村 2000 に以下のような指摘がある。

この種の“給”は日本語ではしばしば「～のために」と訳すことができ、“为(了)”との使い分けが問題になる。“给”を用いる場合は一般的に、動詞(句)の表す動作がそれ自体〈服務性〉〈奉仕性〉または〈介助性〉という特徴を有するものに限られる。そして“给”が導く人物は、その服務・奉仕・介助の対象でなければならない。つまり、“给”が導く受益者とは、動詞(句)の表す服務的、奉仕的ないしは介助的行為が直接もたらす恩恵や利益の受け手だということである。

さらに、先に紹介したように、介詞“给”は「人に物を与える」という動詞“给”から文法化してきた意味を持つので、“给”と組み合わさる動詞は、“给”のもとの意味と呼応でき、かつ服務性、奉仕性、介助性という特徴を有すると考えられる。

しかし、〈服務性〉〈奉仕性〉〈介助性〉の定義は難しく、実際はコーパス(現代汉语通用平衡语料库 CylkSearch v2.6)ではそのような要素を内在させていないと思われる動詞を用いた“给”受益文も多く見つかった。また、〈服務性〉〈奉仕性〉〈介助性〉を持つ動詞と共起する“为”受益文も多数見つかった。

(8)楚相已知是晚饭时自己给她揉的，忙说：“我送你去医院吧。”（楚相はすでに夕食のときに自分が彼女を揉んであげたのを知っていたので、急いで言った「病院に行こう」）《我是太阳》

(9)方强埋怨：“叫你不吃偏要举着吃，这回晓得狠气了啵？”便为于苔花揉肚子。（方强は「食べるなど言ったのに、なにがなんでも食べようとするんだから、今回はさすがにわかっただろう？」と文句を言いながら、于苔花の腹を揉んだ）《孕》

以上のことから、動詞の〈服務性〉〈奉仕性〉〈介助性〉といった特徴から“给”と“为”の使い分けを断定することはできないといえる。

3、黄瓚辉 2001

黄瓚辉 2001 は、“给”“为”“替”の使い分けは、受益者が当然利益を

「～のために」を表す“给”と“为”

受け取るべき対象かどうかという点について、話し手の主観的な評価を反映させる上で、ある一定の傾向を表すと指摘する。

给：ある一つの動作行為及びその動作行為の受益者を表す。話し手は主観的傾向を持たない。

为：動作主の貢献、服務的な意味合いが濃く、話し手から見て受益者がこの利益を受けるのは当然であり、動作主の行為も丁重である。

しかし、以下のコーパス内の例文は上記の指摘に反する。

(10) “六一”国际儿童节快到了，市百货公司小百货批发部已经为孩子们准备了丰富多彩的儿童玩具：有上海的喷气船、塑料面具（西游记人物脸谱）、手推琴、搪塑鹿、吹气兔、布娃娃等；有北京的惯性坦克、儿童照像机等。（“六一”国际儿童节を間近にし、市のデパート百貨販売部では、すでに子供たちに豊富多彩なおもちゃを準備している：上海のジェット船、プラスチックのお面(西遊記の登場人物の模様)、手押し車、プラスチックの鹿、吹き出しウサギ、ぬいぐるみ等；北京の慣性タンク、児童カメラ等。)《天津日报》

(11) 搜集一些能打出节奏的乐器—自制的或买来的，给孩子准备一台录音机或收音机—使孩子听了音乐就想跳舞。（なにか演奏できる楽器を探して—自分で作ったり買ってきたりして、子供にレコーダーか收音機を準備してやれば—音楽を聴きながら踊わせることができる）
《素质教育在中国》

例文(10)では“丰富多彩的”という語を用いて、受益者に準備したものを強調し、同時にその行為も強調しているのに対して、例文(11)は大人が子供に準備してやるという一定の当然性があり、準備したものも非常に特別というわけではなく、むしろ一般的かつ日常的な様子が表れている。つまり、“为”が導く受益者は決して当然の利益の受け取り手というわけではなく、むしろその行為によって受益者のためにわざわざ行うといった印象を増し、受益行為を強調する。一方で“给”受益文は、行った行為そのものを重視し、話し手の主観を排除した単純な陳述という特徴を持つ。動作行為の当然性という点で見れば、“为”受益文よりもむしろ

る“給”受益文の方にその特徴は見つかりやすい。

4、朱徳熙 1979 と佐々木 1994

朱徳熙 1979 は、以下の 4 つの形式によって、“給”に関する非常に明快な分析を行っている。

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{N1} + \underline{\text{给}} + \text{N2} + \text{V} + \text{N3} \\ \text{N1} + \text{V} + \text{给} + \text{N2} + \text{N3} \\ \text{N1} + \text{V} + \text{N3} + \text{给} + \text{N2} \\ \text{N1} + \text{V} + \text{N2} + \text{N3} \end{array} \right.$$

(N1：動作主、N2：受益者、V：動作行為、N3：動作対象)

朱は、上記のどの構文と共起しやすいかによって、動詞を以下の 3 つに分類している。

给予：“送”“寄”など、動詞そのものが授受の意味を含み持つもの

取得：“买”“偷”など、物の獲得と授受という移動の過程を表すもの

制作：“缝”“做饭”など、物を制作かつ授受という過程を表すもの

佐々木 1994 では、授受関係を表す動詞を用いたとき、“N1+给+N2+V+N3”中の“给”が導く相手は、実際の物の受け取り手である「授受者」と、V+N3 という行為全体の受け手である「受益者」のふたつだと指摘している。それらの動詞を用いた場合、“N1+给+N2+V+N3”構文は常に多義性を持つことになる。

你给他打电话

a 你给他打电话，叫他马上到这儿来。（彼に電話して、すぐにここに来させなさい）

b 你给他打电话，说他在这儿有事。（彼のかわりに電話して、彼はここで用事があると言いなさい）

言い換えるならば、その多義性のために“给”構文は 3 種類存在し、どの動詞を共起しやすいかによって多義性を避けるよう使い分けがなされている。しかし、给予類動詞と取得類動詞は“N1+给+N2+V+N3”構文に用いられることは極めて少なく、その形式を認めるかどうかにつ

「～のために」を表す“给”と“为”

いても個人差が生じる。本稿では、明らかに多義性を生じる授受関係を表す動詞を避け、授受を表しにくい動詞を主に用いて、“为”受益文との比較を考えてみたい。

【4】インフォーマント調査

“N1+给+N2+V(+N3)”(N1:動作主、N2:受益者、V:動作行為、N3:動作対象)という文章を軸に、文中の動詞を換えてコーパスで例文を採取し、その後同じ動詞を用いて“为”を検索した。コーパスで検索した際に使った動詞は以下の通りである。そのうちインフォーマント調査に使用したものには波線をつける。

- ・相手の身体部位に対して行う行為
: 剃头、洗头、擦、揉、剪(头发、指甲)、做手术、理发
- ・対象に新たな添加を加える
: 加薪、加班、提高、设计、点火
- ・受益者に手助けをする
: 开车、开门、开灯、摄影、印刷、准备、打扫、涂、吹、缝、铺、腾、修、整理、杀
- ・受益者の問題を解決する
: 想(办法)、治疗、解决、解除、调解、引路、指路、带路、保密
- ・受益者に奉仕する
: 检查、撑腰、支持、贡献、背黑锅、举行、效劳、花钱、签名、报仇、打仗

インフォーマント調査では、コーパスで見つかった中から、筆者が特に“给”との共起に疑問を感じたものを選び、①“给”を“为”に互換することは可能か、②動作主と受益者を入れ替えることによってどのような差異が生まれるかについて質問した。また、③動詞が動作対象をとるものについては、その所有がどこに属するかについての質問も設けた。

インフォーマント調査に協力していただいたのは、次の6人である。

- ・男性、40歳、福建省出身、18歳から北京在住、北京大学中文系教授

- ・女性、24 歳、福建省出身、18 歳から北京在住、23 歳から日本在住、金沢大学文学部学生
- ・女性、24 歳、江蘇省出身、23 歳から日本在住、金沢大学研究生
- ・男性、24 歳、広東省出身、23 歳から日本在住、金沢大学工学部学生
- ・男性、23 歳、陝西省出身、23 歳から日本在住、金沢大学工学部学生
- ・女性、23 歳、上海市出身、18 歳から大連在住、23 歳から日本在住、北陸大学薬学部学生

① “给” から “为” へ転換（インフォーマント調査表は資料編参照）

選んだ動詞は全て転換可能であろうと予想していたもので、結果にも特に大きな違いは見られなかったが、多少被験者によって意見の食い違いが見られた。以下に結果表を示す。

“给” から “为” への転換は可能か？

- ・独立した目的語をとらない動詞(離合詞)

	保 密	点 火	理 发	开 车	撑 腰	报 仇	背 黑 锅	指 路	打 仗	花 钱	想 法 子	签 名
Yes	6	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	4
No	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	2

- ・独立した目的語をとる動詞

	解 决	做 手 术	解 除	涂	整 理	杀	打 扫	开 灯
Yes	6	6	6	5	5	4	4	4
No	0	0	0	1	1	2	2	2

意見の食い違いが見られる代表的な動詞には、動作行為が容易であるため “为” との共起に適さないもの(开灯、打扫)や、前後文からの影響を受けたもの、また動作対象(動詞目的語)との組み合わせによって転換が認めにくいもの(杀、打扫)などがある。その原因の考察は

「～のために」を表す“给”と“为”

順を追って行う。

【5】比較と考察

1、動作主と受益者の関係に原因がある場合

特に親子間や、個人と「会社」や「国家」間の関係に相違が目立つ。親子間における行為は、たとえ子供が成人で、年老いた親に対して行う行為が当然と見なされても、親を尊敬すべき相手であるととらえて“为”を用いた方が適切だとする意見があった。反対に、そういった個人的感情を排除した文脈では、“给”を用いて行為の必然性を強調し、単純な叙述文として表現している。

(12)那天, 我为妈妈安排好一切, 望着远去的车子, 我高兴地长长舒了口气,

(その日、私は母に一切を準備してやり、遠くの車を望んで、うれしくなり長々と一息ついた、) 《我的父亲毛泽东》

また、組織と個人間や組織と組織間においては、関係性が明確なものは“为”で正式な意味合いを出し、関係が不明確なものについては、“给”を用いてその事実を陳述することにのみ焦点が当てられている。

2、副詞に原因がある場合

一般的に“为”受益文は、動作行為の特別性や受益者への尊敬の意を表すとされる。そのため“亲自”や“特地”などの行為を強調したり、相手への尊敬を表したりする副詞が多く現れるのが特徴である。これらの副詞が共起すれば、“我”(自分)という尊敬を表しづらい対象でも“为”を使いやすくなる。

(13)接着专门为我进行操作表演, 我真眼笨心拙, 比方说接头吧, 她的手竟是那样巧, 一拨、一扯、一绕、一捻, 头就接好了。我的眼睛睁得再大, 总赶不上她的手快。她好象看穿了我的心思, 又特别为我进行了好幾次慢动作的分解表演。(続いてわざわざ私のために操作のやり方を実演してくれた、私は本当に不器用で、例えばつなぎ合わせるのにしても、

彼女はなんと手があんなに器用で、抜いて、引っ張って、巻いて、捻れば、もうつなぎ終わっているのだ。私は目をどれだけ大きく開いても、彼女の手の動きには追いつけなかった。彼女は私の心情を見透かしていたようで、私のために特別に何度もゆっくりと動作を分解した演技を行ってくれた)《学生》

対照的にそれらの副詞は“给”と共起して受益文を構成することは難しく、また本来“给”を用いて表すのが自然な授受文においても、それらの副詞との共起には“为”が用いられやすい。

(14)宾馆的医务人员对病人精心治疗，耐心护理，不断给予安慰；工作人员服务周到，也常来慰问；食堂同志还特地为病人做半流质的饮食。（ホテルの医務員は病人を心から治療し、辛抱強く看護し、絶えず慰めた；スタッフはサービスが行き届いており、またよく慰問に来た；食堂の人々は病人のためにわざわざ半流動の食事を作った）《表扬武夷山上的“活雷锋”》

3、与格要求度(佐々木 1989)に原因がある場合

数人のインフォーマント結果に、物の受け取りがなく、かつ服務性や奉仕性の高い“撑腰”や“背黑锅”などの動詞と共起する際、“给”から“为”への互換ができない、または不自然であるという意見があった。

我给你撑腰（あなたを支持する）→ ? 我为你撑腰

我给你背黑锅（あなたの身代わりになる）→ ? 我为你背黑锅

その被験者の指摘によると、“给”受益文における“给”を動詞と見立て、動作行為そのものを物とみなし、それを受益者が享受するという解釈が可能であるようだ。“我给你撑腰”を“撑腰”という行為を物とみなしたならば、“为”への置き換えに抵抗を感じるのも理解できなくもない。

また、この回答が“撑腰”や“背黑锅”といった慣用表現化した離合詞や、“指路”や“签名”のような目的語がとれない離合詞と共起する際の語感を示していることにも注意が必要である。佐々木 1989 は、動詞の

「～のために」を表す“给”と“为”

与格要求度と“给”の導く対象の変化に相対関係があると指摘する。与格要求度が強いほど、“给”の動詞性は弱まり介詞性が強まる。上記のような与格要求度の低い動詞と共起するとき、“给”が動作の向かう先を示す役割を主にして存在するならば、その文の受益表現という要素は小さくなり、“为”との入れ替えは不適切といえる。

4、職業性・専門性に原因がある場合

コーパスの“给”受益文の検出結果に、職業を表す表現、特に“人家”を受益者とした文が多く見つかった。このように人物を特定せず、焦点を動作行為のみに集中させて職業を表す構文は“给”受益文に多い。

(15)赵贵兰自己没有发财，从去年秋收时也给人家当了雇工。(赵贵兰は財をなすことができず、去年の秋の収穫期からも雇われ工夫として働いていた) 《中国农业合作化运动史料》

その大部分に対して、同様の動詞を用いた“为”受益文は見つからず、“人家”を受益者としたものも明確に職業を表わしていないものが多かった。“为”は主に“贡献”“奉仕”などの動詞(句)とともに用いて、奉仕やサービスといった意味を表すため、職業のように半ば義務として行う行為の表現には適さないといえる。このように職業として「…する、してあげる」というとき、“给”受益文で表すか、“为”受益文で表すかは興味深い問題である。

しかし、中国人及び台湾人に質問してみると全員が、“给”“为”どちらを用いても職業を表すことはできると回答したが、どちらにより強い職業性を感じるかという質問には、出身地や年齢の一致不一致に関わらず、全くバラバラの回答を得た。

以下の例文では“给”を用いており、その直前の“靠”や直後の“度日”から職業であるということが読み取れる。また、“杀”の動作対象が“猪”であることから、「ブタを屠殺して、それを受益者に与える」と解釈することができ、その授受を表すという目的でも“给”を用いたと考えられる。しかし、ここで“为”を用いたとしても、確かに奉仕として

行っているような印象を受けるものの、それでも職業と判断できないわけではない。

(16)刀是他爹的，他爹大半辈子都是靠走村串寨给人家杀猪度日。(刀は彼の父のもので、彼の父は人生の大半を村や集落を回って豚の屠殺をして過ごしてきた)《盲野》

“给”を用いることで、先に述べたように、その行為を行うのが当然というニュアンスが増し、好き嫌いに関わらずそれをしなければならないという印象を強く受けるため、職業を表すのには適切である。それに対し、“为”を用いて表すと、奉仕性が強くなり無料で「…してあげる」という意味合いが強くなる。

しかし、“开车”や“杀猪”と違って、もともと技術性の高い職業的意味合いの強い“理发”や“做手术”といった動詞との共起には、“给”と“为”の使い分けは職業面でほぼ影響を及ぼさない。

(17)但就在他准备出发之前接到了一个电话，修理公司说要为他修理已经坏了好几天的水管，如果改日期的话要排到下个星期了（しかし出発の準備の直前に彼はある電話を受けた、修理会社が壊れて何日にもなる水管を修理しに来ると言うのだ、もし日にちを変えるとしたら来週まで待たなければいけない）《我在散文的形式里》

(18)只承担给消费者修理和调换手机的义务，而不承担退货的法律责任

(消費者の携帯電話を修理・交換する義務は請け負うが、商品回収という法律責任は請け負わない)《Win2000的尴尬》

つまり、職業かどうか曖昧な“开车”、“杀猪”、“缝”、“打扫”などの動詞に関しては“给”を用いて職業、“为”を用いて奉仕というように、使い分けて表現することが多いが、毎回必ずそうだとは言えず、全ての動作行為に対してその原則が当てはまるわけでもない。職業として表す場合に“给”を使うか“为”を使うかは、言語環境の影響や個人的見解によって決まるといえる。言い換えるならば、“给”と“为”の使い分けは、職業かそうでないかの確実な判断要素にはならない。家族や友人に対して行う行為でも有償であったり、他人や国家に対して行う行為でも

「～のために」を表す“给”と“为”

無料奉仕であったりするため、この際職業かどうかを判断する基準は、“给”と“为”の使い分けではなく、動作主・受益者間の関係や前後文であると結論できる。

5、動作の受け手に原因がある場合

5-1、動作対象と所有者の関係

すでに佐々木 1993 はじめ多くの指摘にあるように、“给”受益文において、その受益行為は受益者に対して直接働きかけられなければならない、動作の対象は受益者の所有物か、少なくとも受益者と密接な関係にあるものでなければならない。コーパスで抽出した例文の大部分で、動作対象の所有者が誰なのか明記されていなければ、それらは受益者の所有である。

我给爸爸洗衣服。

文中の「衣服」は必ず「爸爸的衣服」でなければならない、以下のような文章は単独では成立しない。

***我给爸爸洗妈妈的衣服。**

母の服を洗うのは父の役割であるが、父を休ませてやるという理由で「私が父のために母の服を洗ってあげた」という意味の文章のように、非直接的な行為が結果として利益をもたらす受益文は、以下のような複文にして表さなければいけない。

我为了让爸爸休息，给妈妈洗衣服。

これは、“给”受益文が、直接的な受益行為しか表現できないことに原因がある。

書面インフォーマントにおいても、確認のために動作対象についての質問を加えた。所有者を明記していないもの、動作主の所有物、受益者の所有物、公共物の4つの選択肢を設け、動作対象としてとることができるかどうかを聞いた。結果は以下のとおりである。

	解除	解決	整理	打扫
所有者が 不明記のもの	Yes/No 6 / 0	6 / 0	5 / 1	6 / 0
動作主の所有物	0 / 6	1 / 5	4 / 2	5 / 1
受益者の所有物	1 / 5	6 / 0	1 / 5	0 / 6
公共物や 共同所有物	0 / 6	5 / 1	6 / 0	4 / 2

ほとんどの被験者が、動作対象は明らかに受益者のものなので、あえて所有者を明記する必要はないと答えた。反対に、あえて明記したことで奇妙な印象が出てしまい、No を選択した被験者もいる。受益者に対して行う行為の対象物が自分のものや第三者のものであってもいけないという結果も、先行研究のとおりである。また、文中の“給”を“为”に置き換えてもこの結果は変わらないという回答を得た。この点に関して“给”と“为”に相違は現れないと言える。

5-2、動作対象への加工や添加

4-1 で述べたように、“给”受益文でも“为”受益文でも、動作対象はともに受益者のものを指すことが分かった。動詞が動作対象を明確に記している際に“给”と“为”の相違は見られないが、以下の文のような動作対象の現れない受益文では多少の差が出る。

(19) 为谁梳洗? (誰のために髪をとかし、化粧をするのでしょうか) 《清平风月相思》

この文には「～の髪をすき、顔を洗ってやる」という意味のほかに、上記のような「～のために(自分が)髪をすき、顔を洗う」という意味もある。つまり、動作主が受益者の所有物に対して行為を行う場合と、自分で自分の所有物に行為を行い、その理由が相手である場合の二つの意味が生じ、多義性が現れる。このような現象は主に、動作対象をとらないものの、明らかに何かに加工や添加を施す動詞と“为”が共起する際に

「～のために」を表す“給”と“为”

現れるが、一方で“给”受益文には起こらない。以下の文のように、髪は明らかに“谁”の所有物であり、動作主が誰かのために自分の髪を洗うという意味はなく、多義性は生じない。

(20) 给谁梳洗? (誰の髪をとかしてあげるんだい?)

この相違が生じる原因としては、“给”受益文の持つ行為の直接受益という特徴のほかに、ここでの“给”が、動作・行為を代わりに行うことによって利益をもたらす代替受益を表す“帮”“替”としての意味を表すのに対して、ここでの“为”は、受益対象を導く意味と、目的を表す“为了”の意味のふたつを持つことがあげられる。“为”が前者の意味であるとき、“给”との入れ替えは可能だが、後者の意味ならば入れ替えはできない。また、後に述べる“给”が表す動作行為の方向性も原因のひとつと言ってよいだろう。

しかし、注意したいのは、上記のような多義性を持つ“为”受益文は、比較的古い文章の中に多く見られるようで、最近の文章における動作対象はほぼ全て受益者のものであるという点である。

インフォーマント調査でも、年齢の若い被験者は、“给”“为”ともに、相手の所有物に対して行為を行わなければいけないと答えたのに対し、年齢の高い被験者は、“为”受益文であれば、相手の所有物でなくても特に抵抗を感じないと答えた。所有者を明記しなくても、読者は自然と動作対象を受益者のものと解釈するように“给”と“为”の差が小さくなり、その分“为”と“为了”との差が大きくなってきているのではないだろうか。

6、マイナス語義の動詞との共起に原因がある場合

楊凱榮 1994 に以下のような指摘がある。

“给”はそもそも受益専門の介詞ではない。主として動詞(特に自身の力で間接目的語がとれない動詞)による動作の向う相手(与格)を示しているにすぎない。それが相手にとって利益となるか不利益となるかの決定はむしろ語彙的な部分にゆだねられ、“给”

はそれに対して無関心である。語彙がプラスの意味であれば受益の意味に傾くが、語彙がマイナスの意味であれば、逆に被害の意味に転じてしまう。

確かに“給”はマイナスの意味の動詞と共起するとき受益を表現しづらい。例えば「**我把手表给你弄坏了**。(私はあなたの腕時計を壊してしまった)」では、“给”構文は受益ではなく被害を表し、“给”が導くのは受益者ではなく被害者である。

日本語では「もっと怒ってくれればいいのに、全然怒ってくれない」という文は自然である。「怒る」は本来マイナスの意味であるが、怒られることが話し手にとって利益になると思われるときにはこのような文が表現可能である。

例えば「殺す」というマイナス語義の動詞について考えてみる。“给”受益文では、動作「殺す」の対象は、食肉加工用の豚や羊のように、必ず形になって残り受益者が直接受け取れるもの、つまり動作主が加工したのちに受益者に受け渡せるものでなければならない。そのため、たとえ受益者の利益になるということが明確に分かっている状況でも、「王さんは李さんのために張さんを殺した」「村長は村人のために熊を殺した」「父親が子供のためにゴキブリを殺した」などは、どれも“给”受益文では表せない。実際にコーパスで抽出した文でも、動作対象は食品のみであった。

(21)歪脸每天都要李黑给他杀掉很多的山羊, (歪脸が毎日李黒にたくさんのヤギを殺させたので、) 《伤心的黑羊》

(22)在我等小贩给我杀黄鳝的时候,我突然想起, (小贩が田鰻を殺してくれるのを待っているとき、私は突然思い出した、) 《郎》

ここで“给”が導くのは受益者の中でも、特に実際の物の受け取り手と言える。各文は、以下のように時間的順序にのっとして連述構造に言い換えても同じ意味を表すことができる。

歪脸每天都要李黑给他杀掉很多的山羊

→ 歪脸每天都要李黑杀掉很多的山羊给他

「～のために」を表す“给”と“为”

在我等小贩给我杀黄鳝的时候

→ 在我等小贩杀黄鳝的时候给我

一方、“为”受益文では、動作「殺す」の対象は、形となって残り受益者が受け取れるものと、その他一般的なものの両方をとることができる。

(23)在心情欢畅的日子里，他喜欢观看他的御厨为他杀蛇，（心愉快的日々の中で、彼はコックが彼のために蛇を殺すのをみるのが好きだった、）
《刺客列传》

(24)他牢记父辈的嘱咐，誓为祖国杀敌立功。（父親の言いつけをしっかりと心に刻み、祖国のために敵を殺し手柄を立てることを誓った）《解放军报》

しかし、実際に“N1+给+N2+杀+N3”と“N1+为+N2+杀+N3”のN3にはどのような動作対象をとることができるのか、口頭による質問を試みた結果、それぞれ大きく個人差が出た。

- ・“N1+给+N2+杀+N3”のN3に以下の3つの動作対象をそれぞれあてはめることができるか？

蟑螂 Yes 4 / No 3

敌人 Yes 3 / No 4

老吴 Yes 2 / No 5

- ・“N1+为+N2+杀+N3”のN3に以下の3つの動作対象をそれぞれあてはめることができるか？

蟑螂 Yes 6 / No 1

敌人 Yes 4 / No 3

老吴 Yes 3 / No 4

質問した際に回答者から得た意見を以下にまとめる。

- ・“给”“为”に関わらず、受益者の利益になるものであればどんな対象でもかまわない
- ・“给”ではどの選択肢も不可能だが、“为”では全て可能である
- ・“给”受益文では必ず受益者が受け取れるものでなければいけないが、“为”受益文では殺した結果受益者が利益を得るものであれば

よい

- ・「殺す」対象が「ゴキブリ」のような日常のかつ容易に殺すことができるものであれば、“給”と共起することが可能であるが、敵や人間の場合は不可能である
- ・「敵」とは、祖国や自分が所属する大きな集団に対抗する外部の勢力と想定されるため、それを殺すのは、国家や人民、仲間といった抽象的な相手に利益をもたらそうとして行う行為である。そのような相手に対してする行為に“給”を使うのは好ましくなく、“为”を用いた方が自然である。

選択肢は全て「殺す」ことで受益者が利益を得るという前提の下で質問をしたが、やはり“给”受益文では表しにくいという回答が多かった。またコーパスでは“破坏”や“消灭”などのマイナス意味の動詞と共起して受益を表す“给”構文は出てこなかったが、“为”受益文は検出された。

(25) “喷的是消毒药水，为你们消灭病毒。”（吹いたのは消毒薬だ、君たちのためにウイルスを殺菌するんだよ）《“植保专家”出诊记(上)》
“解决”や“解除”などは、“杀”と同じように対象を取り除くことで受益者に利益をもたらすが、プラスの意味の語彙なので“给”と“为”の違いによる文全体の相違は現れない。

“N1+给+N2+V+N3”構文では「受け手」と「受益者」は異なる二つの概念を表す。つまり“给”が導く受益者は、「N3の受け取り手」と「V+N3という行為全体の受益者」の二通り考えられる。前者を“给”授受文、後者を“给”受益文と言い分けてもよい。さきに述べたように、“给”受益文は、非直接的な受益を表すのは不可能で、マイナスの動作行為を行ってその結果非直接的に利益をもたらすという表現はできず、具体的に物を受け取るという前者の役割しか果たせない。上記の結果もそのためと言える。

一方、“N1+为+N2+V+N3”構文において、行為の相手が「N3の受け取り手」であるか、「V+N3という行為全体の受益者」であるかは重要で

「～のために」を表す“給”と“为”

はない。重要なのは、あくまでその人物なり団体なりが利益を受けることである。李 1994 や劉 1997 のように、“为” 受益文においても“给” 受益文同様ふたつを異なる概念ととらえ、“为” は「受益者」しか導けず、「受け手」は導けないとする意見もある。その意見によると、共起する動詞そのものが授受を表したり、“为” 受益文の中で用いられると授受の意味を持つ場合、N2 ではない第三者が N3 の受け手として文外に必要だとする。しかし、“为” 受益文においては、授受は受益という大きな行為の中の一部分として位置づけられる。そのため、“给” 受益文とは違って、マイナスの意味の動詞を共起して非直接的な受益を表すことも可能で、且つその中に授受を含むこともできる。

【6】結論

“给” 受益文は、単純な陳述や、自然かつ当然なこと、特別に称賛されるわけではないことやそのニュアンスを表す際に用いられる。簡単な動作を施してやる場合や、大変な作業でもそれをするのが当然である状況を表す場合に使われる。

また、楊 1994 の指摘のように、自動詞や単独で与格をとれない動詞と共起する際には、受益の対象ではなく動作行為の方向を表すだけという意味特徴もある。“给” 受益文にとっての受益者とは、あくまで動作行為の帰着点にすぎず、その結果、“给” は動作を行ってやる相手すなわち受益者よりも、行為そのものの方により焦点を当てているということができる。一方で“为” には方向性を示すという特徴はなく、方向性を含み持つ動詞との共起には適さない。

したがって、受益に焦点をあてた表現には、“为” を使って尊敬の意を表す方が適切といえる。例えば、動作主が“孩子”や、受益者が動作主より目上の際にこの傾向が見られる。反対に受益者が“孩子”の際などは、一般に能力がなく、動作主より目下の者と見なされるので、“给” を用いたほうが自然である。また“给” には事実を客観的に陳述するという意味もあるために、たとえ“老師”や“妈妈”のように尊敬すべき

対象でも、その間柄に明確な身分の上下や尊敬・非尊敬の関係がないと判断される場合には、“給”を用いて端的に表すほうが自然とされる。

一方で“为”は、動作行為の非一般性を表現し、服務・奉仕性の強調することに役立っている。動作行為そのものは一般的なことであっても、その対象である受益者に対して「特別に」「わざわざ」それを行ってやるという意味を表す際に用いられる。つまり、“为”受益文が重要視するのは、行為そのものよりも、その行為から利益を受ける受益者であると言える。実際にコーパスで検出した文でも、“为”受益文の受益者には、具体的な人名や団体名が多く、受益者を明確に特定して動作行為を行っている。

また、“给”構文における「授受」と「受益」は異なる二つの概念だが、“为”構文では「受益」という大きな概念の中に「授受」が含まれている。“为”が“给”と互換可能なのは“给”構文が「受益」を表す場合だけである。

【7】おわりに

本稿における判断の多くは、コーパスで抽出した例文と、インフォーマント調査の語感を基にしたものであるが、個人差や年齢差が大きく、またすでに多数の指摘にもあるように、“给”にはかなりの方言差があることも考慮しなければならない。特に、“给”と共起する動詞の動作対象(動詞目的語)の容認度は、個人差が非常に大きかった。今回は主に“给”の角度から“为”との比較を行ったが、“为”についてもっと詳しく調べれば、更に詳細な比較ができたのではないかと思われる。今後の課題としたい。

「～のために」を表す“给”と“为”

〔資料編〕

〈参考文献〉

- 泉敏弘 1995 「“给”、“为”、“替”」
『中国語類義語のニュアンス』 東方書店
- 李晓琪 1994 「介词“给、为、替”一兼论对外汉语虚词教学」
『语法研究与语法应用』北京语言学院出版社
- 刘大为 1997 「介词“为”为什么容易被误用」 『语文建设』第10期
- 黄瓚辉 2001 「介词“给”“为”“替”用法补遗」
『暨南大学文学院学报第1期』
- 木村秀樹 2000 「“给”が使えない「ために」」
『中国語』2000年10月号 内山書店
- 佐々木勲人 1989 「「给」の動詞性—動詞の与格要求度との関係について—」 金沢大学卒業論文
- 佐々木勲人 1990 「“给”構文の多義性について」
『日本語と中国語の対照研究 第13号』日本語と中国語の対照研究会
- 佐々木勲人 1993 「受身と受益—“给”構文の分析—」
『日本語と中国語の対照研究 第15号』日本語と中国語の対照研究会
- 佐々木勲人 1994 「中国語の受益文」『筑波大学言語文化論集38号』
- 孙剑艺 1998 「“为”并没有被误用」 『语文建设』第12期
- 杨凯荣 1994 「受益表現について—“给”と『てあげる、てくれる』との比較を中心に」『九州国際大学教養研究第1号』
- 朱德熙 1979 「与动词“给”相关的句法问题」『现代汉语语法研究』

〈引用コーパス〉

現代汉语通用平衡語料庫 CylkSearch v2.6

- ・〈若男和她的儿女们〉《若男和她的儿女们》节选 黄允 1996 上海文艺出版社
- ・〈全世界都八岁〉《全世界都八岁》节录 皮皮 2000 南海出版公司

- 〈我在散文的形式里〉《橄榄树》 严力 1996 中文诗歌月刊 中文诗歌网络诗刊编辑部主办
- 〈我是太阳〉《我是太阳》第一章节录 邓一光 1997
- 〈孕〉《涡流》节录 汪新 1997
- 《素质教育在中国》四川人民出版社
- 《学生》节录 俞伯周 1962 湖南人民出版社
- 《我的父亲毛泽东》李敏 2000 生活时报社
- 《表扬武夷山上的“活雷锋”》江西上饶某某局工会 1983 福建人民出版社
- 〈中国农业合作化运动史料〉《中国农业合作化运动史料》节录 史敬棠、张凜等 1959 生活·读书·新知三联书店
- 〈盲野〉潘灵《啄木鸟》1996
- 〈Win2000 的尴尬〉电脑报 2000
- 〈伤心的黑羊〉鬼子《作家》1999
- 〈郎〉沈东子《花城》1997
- 《刺客列传》节录 李浩《花城》2000
- 《解放军报》解放军报社 1979
- 《“植保专家”出诊记(上)》 王坤仁 1987 中国少年儿童出版社
- 《哥俩好》节录 所云平、白文 1963 上海文艺出版社
- 《母亲的文化》 鹤坪 《散文选刊》1999
- 〈剑桥女孩孟雪莹 4〉 田雨 素质教育纪实报告,剑桥女孩孟雪莹 2001 时代文艺出版社
- 《永远有多远》节选 铁凝 2000 解放军文艺出版社
- 《急湍》节录 隅·急湍 1936 联合出版社
- 《东北之家》节录 章泯 中国新文学系 1985 上海文艺出版社
- 《画中人》节录 李永铮 《中国儿童文学大系·科学文艺》1990 希望出版社
- 《坦言》节录 海男《花城》1997
- 〈人寰〉 严歌苓 《小说界》1998

「～のために」を表す“给”と“为”

- ・〈古井贡探秘（一）〉何建明 《中国作家》 1999
- ・《南方汽笛》节录 濮思温・刘振丞 1965 中国戏剧出版社
- ・《红色的果实》节录 马加 《红色的果实》1960 作家出版社
- ・《归来之前》节录 舒群 《中流》 1936 中流社
- ・《神奇的七色光》节录 嵇鸿 《科学童话十家》1989 海燕出版社
- ・《处处是春天》节录 王燕飞 1957 中国青年出版社
- ・《女伶》节录 邢院生 《女伶》1989 华文出版社
- ・《误点》节录 宋凤仪 《北京人民艺术剧院戏剧创作集》1959 北京出版社
- ・《天津日报》

〈参考辞典〉

- ・小学館 中日辞典
- ・白水社 中国語辞典
- ・東方書店 中国語辞典
- ・角川書店 中国語大辞典

〈インフォーマント調査表〉

①動詞が対象を取らない場合

[保密]

二班长直来直去地：“你是不是有什么心事？”
陈二虎一惊：“我一没有！”
二班长：“有什么心事尽管跟我讲，我给你保密！”
陈二虎：“真的没有！”
二班长：“没有就好。 《哥俩好》”

上面的句子中的“给”能不能换成“为”？请划圈。

Yes / No

〔使用した例文〕

〔签名〕 我的母亲大字不识，没有文化，但偶尔也会拿一本书在手上翻弄，好像看懂了的样子。她还愣是从报纸里找到过我的名字，并且指给我看。

1 年前，我的长篇小说《大窑门》出版，母亲郑重其事地向我要过一本，**还让我给她签名(私にサインまでさせた)**。我谨遵照办。后来，母亲又向我要，她要送人。《母亲的文化》

〔花钱〕 可是，在别人看来，这件事并不一定是明智和正确的。反对的人很多，单就是我听到的理由就有许多种，有的人说，山里面的孩子穷也没有办法，世界上的穷人太多了，这是正常现象；也有人说，山里的孩子特别笨，**我给他们花钱是白白浪费(彼らのために金を使うのは全くの無駄だ)**；更有甚者，竟然攻击雪莹：“刚刚初中生就知道用这种办法来弄钱。”对于前面的种种说法我不在乎，可是在面对对雪莹的人身攻击我愤怒了，你个人对于没有钱读不起书的孩子没有同情心。也就算了，可你不必对我的女儿进行人身攻击呀！《剑桥女孩孟雪莹 4》

〔指路〕 小娘在里边打印文件，有时南韩等外国客户来时担任英文翻译，出席各种奢华的宴席及陪同去唱歌。我对她半桶水的英语水平外国人能不能听懂一直怀疑不已。**有一次在街上她热心地给两个迷途的老外指路(あるとき、彼女は街角で熱心に、道に迷った二人の外国人に道を示していた)**，竟然将“CROSS THIS STREET”说成“KISS THIS STREET”，使我半个月内有了新的笑料。《永远有多远》

〔想法子〕 **他再叫一声**。李肥吃了一惊。原来他受了那老头子的话的感动，正在给他想点法子呢(彼のために何か方法を考えてやっている)，可惜搜尽了他的肥肠饱肚，到底没有一点主意。’少爷，’老头子又接着：’您是贵人，您是文明人，您说说我们还有活路没有？’**他略停一停**。《急湍》

〔打仗〕 ××鬼子不是在挨门挨户地抓年青人去打仗吗？**给谁打仗？(誰のために戦うんだ?)**给义勇军！鬼子他们要打，自个打去好了，干么要别人去作替死鬼？《东北之家》

〔点火〕 他每天出外干活回来，饭已经做好了，热腾腾的摆在桌上；衣服洗干净了，补好了；房间里也收拾得干干净净的。他奇怪极了，有一天特

「～のために」を表す“给”と“为”

地不去下地，躲在门外悄悄地看。他看见画里的美人走下来了，正准备给他点火做饭(火をつけて食事を作る準備をしていた)。他连忙闯进屋去，把挂在墙上的那幅画——现在成了白纸了——卷了起来。画上的姑娘只好留在人间，和农民结成夫妻，俩人过着幸福的生活。《画中人》

[背黑锅] 陈大虎：“小点声！”拉陈二虎至僻静处，“我不给你认下来，还了得！”陈二虎：“我不能叫你给我背黑锅(僕の身代わりになれなんて言えないよ)。我找指导员坦白去！”《哥俩好》

[理发] 开始上班了。正是国庆节前夕，顾客特别多，为了让顾客理好发，过佳节，店里延长了营业时间。老师傅集中精力给顾客理发，徒工来回递毛巾，送大布，给顾客洗头(老先生は力を集中させて客の髪を切り、見習い工がタオルを渡しに戻ると、大きな布を渡して、客の頭を洗い)，一天要站十来个小时。师傅总是说：“小范，吃饱点，人是铁，饭是钢，累了就休息会儿，别逞强，噢！”小范把长长的辫子一甩，调皮地一笑：“不要紧！”《阳光中成长》

[做手术] 他把选好的文章摆在桌上，说：“为了更好地抓住读者，你是否再拿回家修改修改”。我没有从正面回答他是还是否，只是说了一段这样的话：“记得一位医生对我说过这样的话，他说他从不给自己的家人做手术(彼は、怖くて決して自分の家族の手術ができなかった)，尤其是自己的孩子……不过……”秦宇打断我，笑着说：“好吧，那就不麻烦你啦！”他把那些稿件收起来，装在牛皮纸袋里。《坦言》

[开灯] 等着我给你开栅栏。他明明看见老贺已把第二只脚迈了过来。妈又说：别动，别撞着，等我给你开灯(電気をつけるから待ってて)！灯就亮了。现在我的家就在贺叔叔跟前。《人寰》

[开车] 我们十分感兴趣地说，“快讲讲。”司机神秘地说：“那我可不敢讲，你还是问问给董事长开车的李振军吧(やっぱり理事長の運転をしている李振軍に聞いてみろよ)。”汽车驶上了我们曾经坐“豪华大巴”路过的105国道。国道旁是一条清澈的小河。《古井贡探秘(一)》

[报仇] 对，是那样。当初我参加革命，也是整整一宿没有合眼哪，高兴的心都快跳出来啦！原来我只是为了给阿昭报仇(もともと私はただ阿昭

の仇打ちをするためだった)。昨天八生伯告诉了我，阿昭是为了南方解放、为了祖国统一牺牲的。他才十岁，就比我的眼睛看得远，想得透啊。《南方汽笛》

[撑腰] 他批评了干部之后，又做了自我检查：“区村干部的右倾保守，和我的领导是分不开的。平常，我对底下同志帮助教育不够，给贫农撑腰不够(私は部下の同志の教育の手伝いが足りず、貧しい農民への支持も足りない)。就是对于曲世青那个农业合作社，我虽然支持了，态度还是不够积极，当时我说过：‘只要有条件，就可以发展。’今天看来，这也是清规戒律。《红色的果实》

②動作が対象をとる場合

[整理]

而且她生长在富有的家庭中，母亲只有她们这两个孩子，所以在她母亲的眼中，这个孩子不是任何财富所能相比的。她们两人年轻，在她的心上，好像还没有丑恶，美丽，危险，安适，贫困，富豪的区分，所以她还肯照顾我。我不知道她们怎样向母亲说的，就在她们家里给我整理出一个小房间，于是，我就住在那房间里了。几个月的工夫，我想她们为我吃的苦不知有多少。我却绝没有感到什么不舒适。《归来之前》

上面的句子中的“给”能不能换成“为”？请划圈。

Yes / No

在例句中的动词“给我整理”后面可以加一下的**动作对象**吗？请划圈做判断。如果不行，请注明理由。

- 房子 Yes / No ()
我的房间 Yes / No ()
你的房间 Yes / No ()
办公室 Yes / No ()
其他 ()

「～のために」を表す“给”と“为”

〔使用した例文〕

[涂] 这样，太阳公公才又重新放出光芒来。虽然那是万道刺眼的白光，可是大家都知道并且辨别得出，那是美丽的七色光组成的。太阳公公发出洪亮的声音，告诉大家：“现在你们听着，我要把七色光送给你们，给你们涂上鲜艳的色彩(彼らに鮮明な色彩を塗った)。这样，世界就变得美丽了。”乌鸦心里暗暗地盘算了一番：“我要把七种颜色的光统统吸收掉，这样，我的羽毛就会变成七色的，我将成为世界上最美丽的鸟，谁也比不上我一哦，不！ 《神奇的七色光》

[杀] 余辉把他手里提的一把杀猪刀抹得贼亮。那花了他一整个正午磨出的白刃透出令人胆颤心惊的寒气。刀是他爹的，他爹大半辈子都是靠走村串寨给人家杀猪度日(彼の父は人生の大半を、村や集落を回って豚の屠殺をして過ごしてきた)。只要每年冬腊月间，六指的爹就会像春天的蛇一样醒过来，倦意蒙胧的老脸上就会泛起一层油水丰足的光泽。杀猪是爹快乐的美差，六指这样想。

[打扫] 你，你要怎么？李书记刚到区上来，你该给李书记安置地方呀！（被马四姐提醒）呵呵……（忙提起李国春的皮箱）好，我给你打扫房子去(わかった、部屋を掃除してやるよ)。我一（话未落音，马四海和世清已经走出门外了）李书记，他是个直性子人，你可要担待他一步。《处处是春天》

[解除] “先听听你的志愿，供我参考。”“我上大学还早呢。”江风看着比她高半头的黄伯云，“不过我从小就立志学医，能给病人解除病痛(病人の痛みを取り除き)，就是我的幸福。到了中学，我看到世界上的不公平，没有人为受冤屈的人鸣不平，我想学法律，当律师，舌战群儒。”黄伯云听了哈哈大笑：“受苦受难的人，谁请得起律师？《女伶》

[解决] 因为现在文盲大多数是家庭妇女；不是文盲的都早就工作了。有的是孩子多，有的跟您的情况相类似。扫盲队正在给学员们解决困难(文盲一掃隊は學員たちの困難を解決していた)。孩子多的，大的就用不着管了，小的就带到学习班去，有人给看着；而且并不耽误大家做饭做活的时间，

因为就是占用中午休息的时间学习。比如从一点半学到两点半，或是从两点到三点，这个时候都是该上班的已经上班了，上学的也走了，通共一天就学一个钟头。 《误点》

・ 以下的各个成分能否用于“动作主+给+受益者+V+（動作対象）”
这个句型中？请填写 ○、×和△。

能…○ 不能…× 能但有条件…△(请注明有什么样的条件)

・ 以下的各个成分能否用于“动作主+为+受益者+V+（動作対象）”
这个句型中？请填写 ○、×和△。

能…○ 不能…×能但有条件…△(请注明有什么样的条件)

	我	你	他	老师	孩子	妈妈	别人	自己	小李	公司	国家
我											
你											
他											
老师											
孩子											
妈妈											
別人											
自己											
小李											
公司											
国家											

表の項目はそれぞれ、横が動作主、縦が受益者を表す。